

シリーズ第26話



## 蜂刺症とマムシ咬症

### 【蜂刺症】

日本ではスズメバチ類をはじめ、アシナガバチ類、ミツバチ類、マルハナバチ類などが蜂刺症を起こすといわれ、例年8月から9月をピークに多くの患者さんがいます。

症状は、痛み、腫れ、蕁麻疹、掻痒感、紅斑などがあります。蜂に2度、3度と繰り返し刺されると、体内に蜂毒に対する抗体ができ、アナフィラキシーショック（急激なアレルギー反応）が出る場合があります。アナフィラキシーショックは、呼吸困難、口が渇く、血圧低下、めまい、頭痛、腹痛などが見られ、重篤化するとショック状態となり意識不明に陥ることもあります。

治療はそれぞれの症状を緩和するための対症療法が中心で、

特効薬はありませんが、アナフィラキシーショックを緩和させる自動注射器がありますので医師に相談してください。

もし、蜂に刺されたらすぐに毒素を絞り出して、最寄りの医療機関に問い合わせてください。毒素を絞り出そうとして口で傷口を吸うと、口腔内が腫れる恐れがあるのでお勧めできません。蜂の巣に近づいたり、蜂がいるところで甘味飲料を飲んだりしないなど刺されないように注意しましょう。

### 【マムシ咬症】

日本にはハブ、マムシ、ヤマカガシの3種類の毒蛇が生息しています。このうちハブは沖縄・奄美地方にのみ生息し、この地域ではマムシとヤマカガシがみられます。マムシ咬症は年間2千から3千人と推定され、10

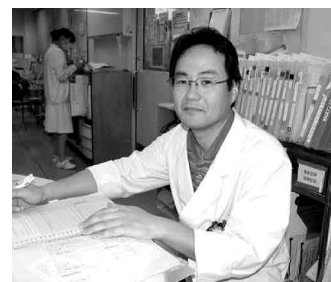
人前後が死亡しています。

田植えや草刈り、稲刈りの時期に多くなっています。

マムシはクサリヘビ科に属し、その毒はハブよりも強力であるといわれていますが、ハブに比べ小型であるため注入される毒素が少なく、結果としてハブよりも軽症であることが多いようです。

診療上、咬んだ蛇がマムシなのかが大変重要です。マムシの胴体は太く、頭は三角で黒褐色の銭型の斑点が特徴です。また、咬まれた傷跡（2本の鋭利な歯型）や症状（痛み・腫れ）、全身状態によりマムシに咬まれたと判断することもあります。

応急処置としては、蛇毒が体内に広がらないように、咬まれた部位から一関節分、体の中心側を縛りながら安静を保ち医療



新城市民病院  
外科・消化器科  
診療部長 金子 猛

機関を受診してください。

以前はマムシ咬症の治療に、マムシ抗毒素血清を使用していました。この血清を使用することで過敏症となり、かえってショック状態になることがあるので、最近では使用されなくなっています。

マムシ咬症は短時間で重症化し、ショック状態になることができるので自己判断で治療せず、できるだけ早く医療機関を受診してください。



マムシ